

あたらしい目黒区のリーダー像を台湾のマスク対応に学ぶ!

台湾IT担当大臣の情報公開で、マスクの在庫不足問題が解決へ

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっています。日本でも、マスクやアルコール消毒液、ペーパー類の品切れが続出し、買い占め転売が大きな社会問題になっています。

菅義偉官房長官が2月12日の記者会見で、「24時間生産などの態勢強化で、毎週1億枚以上のマスクを供給できる見通しができている」と豪語していたのはいったい何だったんだろうか、とため息もつきたくもなりますが、この緊急事態において文句を言っても仕方ありません。また、国からの唐突な要請を受けて、3月から目黒区でも学校休校が実施されています。感染拡大を避ける苦渋の措置とは言えども、子どもの居場所や学童の問題、仕事を休めない親の悩みなど、対応にほとんど困り果てた子育て家庭も多かったことと思います。



そんな中、連日、ニュースサイトや情報番組で話題になっているのが、台湾のIQ180天才プログラマー、38歳の**オードリー・タンIT担当大臣**（台湾ではデジタル担当政務委員）です。

台湾でも、一時マスク不足が深刻化しましたが、オードリー・タン氏の決断で、政府が持っている小売店のマスク在庫状況のデータを一般公開。そのデータをもとに、台湾のエンジニアたちがボランティアにて「マスク在庫マップ」をわずか数日で作成・公開しています。

このマスク在庫マップはなかなかの優れもので、自宅の近くのドラッグストアなどが地図上に色分けされており、マスクの在庫状況が【充分にある=緑色】【50%以下=黄色】【20%

- 1976年生まれ、元ITエンジニア
- 広島出身→埼玉大学卒
→東洋大学院公民連携学修了
→東京工業大学院博士課程後期在籍

3姉妹の母、目黒区議2期、43歳

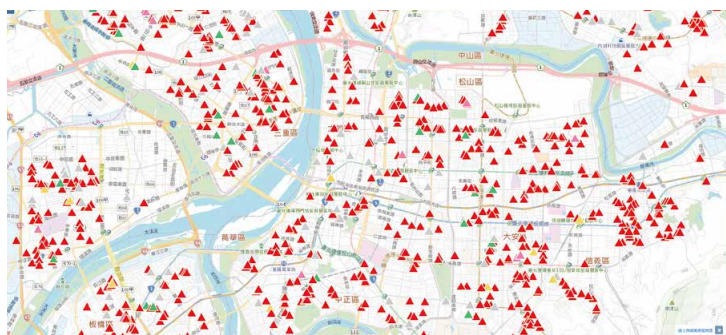
山本ひろこ

以下=赤】【在庫なし=灰色】などと表示されます。さらに店名をクリックすると、住所・営業時間・マスク販売方法・マスクの具体的な在庫数が詳しく出てきます。

また、台湾衛生福利部（日本の厚労省）の公式LINEアカウントは、登録者数が200万人を超えていて、国内外のコロナ感染状況やマスク販売の情報を随時発信するほか、販売薬局の場所や渡航先の警戒レベルも示してくれます。

報道インタビューで、「私は政府が持っているマスクのデータを公開しただけです」と爽やかに言っているオードリー・タン氏に、あたらしい時代が求めるリーダー像を垣間見た気がしました。そして、蔡英文総統の「情報を公開すればするほど人々は安心する」とのコメントも政治家として魅力的です。

マスク不足に毎日悩み、朝からスーパーで行列をつくり、空っぽの商品棚がニュースで繰り返し放映される日本のお寒い状況とは、政治のありかたそのものが180度違います。強力なリーダーシップで住民を引っ張っていくパワー型のリーダーもそれはそれでひとつの形だと思いますが、**情報を即座に公開し、公共・民間の英知を結集し、あらたな知恵を生みだしていくきっかけづくりをする、そんなあたらしい時代のあたらしい目黒区長に私はなりたい**と思っています。



公開された台湾のマスク在庫マップ

あたらしい目黒区は、あたらしい目黒区長でつくる

山本ひろこ
公式LINE
アカウント

山本ひろこが目黒区長としてやりたいこと、 LINE Smart City MEGUROをつくる。



つながる区長へ— LINE で双方向の情報発信を—

山本さんにとってLINEってどんな存在ですか？

LINE って、朝から晩まで手放せないアプリですよ。友人との連絡はもちろん、家族のグループラインもそうですし、ビジネスで活用している会社も多いです。私の子どもたちが通う学童の父母会の連絡も基本はLINEです。全国8,200万人ユーザーと公表されていますから、目黒区の18歳以上で考えれば8割以上の区民が使っている社会インフラと言えます。ちょうど東日本大震災の年がLINEリリースですから、もう9年近くはLINEを使っているわけで、なんだか不思議な感覚ですね。



代表質問の今の区長の答弁は驚きでしたね。

「区長はLINEを使ったことがありますか？」と、質問の最後に私から聞いたんです。そうしたら、苛立ちを隠さずに不機嫌な態度で「使っていません！」と言…。LINEはただのコミュニケーションツールです。使ったことがあってもなくても、人それぞれで構いません。スマホを持っていない人、持たないという選択をした人、色んな人がいていいし、色んな考え方があっていいと思います。私だって、時にスマホやLINEに縛られそうになる生活を苦しく感じてしまうことだってあります。それでも、今やこれだけの目黒区民が日常的に使っている便利なツールに、興味・感心すら示そうとしない人が、この目黒区のトップに相応しいとは思えません。先進的な首長がいる自治体は、ドンドンLINEを積極的に導入して、住民の暮らしを豊かにする道具として有効活用しているのに、この差は何でしょうか。



LINEと地方自治体って、関係あるんですか？



粗大ごみ受付がLINEで簡単にできる
道路や公園の不具合を写真撮影して、LINEで区役所に通報できる
防災・ごみの日・子育ての情報が、LINEに届く



ちがいを
ちからに
変える街。
新型コロナウイルスに関する情報がLINEで届いている
妊婦面接やパパママ学級の予約申し込みがLINEでできる
LINEでAIに区政情報を質問できる



いつも新しい流れがある 市川
住民票の発行申請がLINEでできる
ペットの犬の登録もLINEで完結
自転車駐輪場の利用申し込みができる



自治体としてそんなにLINEへ依存して平気ですか？

もちろんLINEが万能だとは思いませんし、すべてをLINEのみに頼ることはしません。リスクヘッジは絶対に必要ですね。それに、どんな時代だろうとも大切なことは、お互いの顔を見て対話を重ねることです。私が区長になれば、たとえば「持ち寄りランチ会」のような直接交流の場も積極的に用意して、区民と区長がダイレクトにつながるあたらしい目黒区をつくっていきたくと思っています。少なくとも、今の区長のように自分と考えるの合わない人とは面会すらしない、という冷たい姿勢は取るべきではありません。立場を超えた相互対話から生み出されることってたくさんありますから。



私、山本ひろこは、LINE Smart City MEGUROで、夢が広がるあたらしい目黒区を実現します。



特に福岡市のLINE Smart Cityを見たときは、あまりにも衝撃的で、ひとりのエンジニアとしても、区政関係者の立場からも、心が震えました。どうして、私たちの目黒区では、どれもこれも実現できていないのでしょうか。

